

「第 13 回世界照明探偵団フォーラム」

Transnational Lighting Detectives Forum 2017

照明探偵団・京都に現る！！（受け継がれる文化・歴史的）遺産、伝統 Legacy and Tradition
6月8日～6月10日

[Part1] 京都の光の英雄と犯罪者を探そう Find Heroes and Villains of Light in Kyoto

[Part2] 京都の町あかりを皆で創ろう Create Kyoto-style Light Together

Hideko Fujimoto 藤本 英子

1990年に結成された「照明探偵団」は、照明デザイナー 面出薫氏を団長に、これまで世界各地でフォーラムを開催し京都では初めての開催となった。世界10都市から照明デザイナーが集まり、岡崎エリアを中心に開催された。

本学からは、環境デザイン専攻の学生が参加すると共に、デザイン科2回生の藤本担当授業で取り組んだ。

[Part1] には、環境デザイン専攻で、木屋町の光環境調査を行い、京都文化博物館で8日市長も参加される中、プレゼンテーションを行った。木屋町では色温度の高い照明を「光の英雄」として評価し、駐車場案内の緑や店舗の強い赤紫系の明かりを「光の犯罪者」として発表した。9日には、共に参加した京都大学、京都工芸繊維大学、京都造形芸術大学とワークショップを行い、多くの学生たちと共に学び合う場となった。

[Part2] では、環境デザイン専攻で、平安神宮応天門のライトアップを担当、計画を策定し照明器具メーカーの方々と、照明デザイナー Ignacio Valero 氏の指導のもと完成させた。デザイン科2回生は、各自ろうそく型LEDを

活用した行灯をデザインし、紙やプラスチックダンボールで制作したものを、白川沿いの道路に設置した。最終日10日には、ストックホルムの照明デザイナー Jan Ejhed 氏による講評が丁寧に行われ、参加者全員の見学会では、海外のデザイナーからの高い評価を受けた。

今回のフォーラムでは、学生たちが多くの体験に恵まれた。照明器具メーカー数社が協賛下さり、通常授業では体験できない最先端の器具を活用するデザインが体験できた。また、公共空間のイベントとして京都市、府、警察と多くの申請と許可が求められたが、多くの一般市民や観光客の方々にも見ていただくこともできた。

11月には京都造形大学で、成果発表の展示もさせていただき、大学間交流の機会ともなった。最終的に会からは京都市に対して、夜間景観の計画策定の必要性や、街灯LED灯具の見直し提言も行った。主催の照明探偵団 (<http://shomei-tanteidan.org/>) 事務局を務めてくださった株式会社ライティングプランナーズアソシエーツの方々、協賛メーカーなどの方々に深く感謝申し上げたい。



白川ライトアップ



平安神宮応天門ライトアップ